

第1回 地球温暖化防止のための道路政策会議

議事概要（案）

開催日時：平成17年4月26日（火）15：00～17：00

場 所：合同庁舎3号館 4階特別会議室

出席者：石田座長、井出委員、岡部委員、黒田委員、中村委員、林山委員、
藤井委員、松田委員、松波委員
増田道路局次長、林部総務課長、金井企画課長、祢屋地方道・環境課長、
深澤道路経済調査室長、吉崎道路環境調査室長 他

主な議事概要

データの分析について

- ・1990～1997、1997～2002間のCO₂排出量の増減の要因別排出量の分析が必要。
- ・三大都市圏以外の地方における効率の悪い地域の原因分析が必要。
- ・効果の計測や推計手法についての議論が必要。

CO₂削減のための方法

ソフト施策

- ・人の車の使い方や交通行動の視点は重要（ユーザーの視点）。
- ・日本人は環境への意識が高い。車の使い方によってCO₂が削減されるという意識が低い分、改善の余地も大きい。
- ・アイドリングストップやエコドライブなどのソフト施策も考えることが必要。
- ・ロジスティクスでトラック貨物は減少傾向になるだろうから、今後は自家用車をターゲットにする必要がある。その点では、個々のライフスタイルが大きく影響する。自動車学校でエコドライブを教えるというのも対策の1つ。
- ・地方に行くと自動車に頼らざるを得なくなる地域もある。公共インフラの整備の度合いを考慮した議論が必要

制度など

- ・環境税の問題も議論すべき。
- ・低燃費車の導入の見通しは無視できない
- ・混雑料金や乗り入れ規制などのソフト施策も考えるべき。
- ・現状の道路への満足度はある程度あるものの、交通渋滞の円滑化が最大の関心事。信号等の交通管制は警察の所掌であるが、幅広く議論し、その内容を警察にも伝えていくも1案。

施策の進め方について

- ・焦点を定めないと話が広がりすぎ。
- ・プライオリティをつけて、どこまでやるのか焦点を決めるべき。
- ・ソフト、ハード両方が大事。ソフトで短期を考え、ハードで長期を考えるイメージか。意識行動の問題（自発的な行動変化）としてユーザー側の視点に立った検討をする必要がある。
- ・2010年までの目標期間との関係もあり、短期施策と長期施策を分けて、両方を取り上げつつ、分けて整理する。